



APAY eNews

翻訳: 永岡美咲 (日本Y M C A同盟)

アジア・太平洋Y M C A同盟 常務委員会・常置委員会準備中

アジア・太平洋Y M C A同盟 (APAY) の年次常務委員会 (3月6日～10日) が間近となり、APAY では会期中の常務委員会および関連会議の準備を行っています。

出席者は100人を超える予定です。前の4か年が終了し、新たな4か年が今回の常務委員会でスタートします。今回の常務委員会が実り多きものであるよう、Y M C Aにかかわる多くの方が望んでいます。常務委員会は、これまでの4年間の強みや弱みに基づき、新しいアイデアやコンセプト、計画を話し合う場として期待されています。

さらに、今回の常務委員会は、すべての分野においてミッションに基づく活動・アクションに新たに応じ、アジア・太平洋地域のあらゆるコミュニティを改善していくものとなるでしょう。

日本からは、島田茂同盟総主事、岡戸良子氏 (横浜Y M C A常議員・APAY 常務委員)、中村あずさ氏 (学生Y M C Aシニア・APAY ジェンダー委員)、黒澤伸一郎氏 (横浜Y M C A同盟常議員・APAY ユース委員)、橋崎頼子氏 (神戸Y M C A常議員・APAY ユース委員) が出席しています。

暴力行為が紛争の変革をもたらす インド・オリッサ州にてワークショップ開催

宗教間対話フォーラム (ICF) ・APAY 共催の「壁を乗り越え、橋を架ける (Breaking Walls, Building Bridge)」というテーマのワークショップが1月29日～2月4日の日程でインド・オリッサ州のブバネーシュワルY M C Aにて開催されました。

2008年8月、オリッサ州内でキリスト教コミュニティを批判したヒンドゥー教指導者スワミ・ラクスマナンダ・サラスワティ師 (Swami Laxmanananda Saraswati) が現地のマルクス主義者 (訳注: 毛沢東ゲリラ) によって殺害された直後、キリスト教徒をターゲットにした激しい暴力行為があったカンダマル (Kandhamal) 地区から160km以上も徒歩で逃れてきた900人以上の人々を、ブバネーシュワルY M C Aでは受け入れました。

ブバネーシュワルで開催されたワークショップには、オリッサ州やインドの他地域からの参加者に、インドネシア、ネパール、フィリピン、スリランカという紛争を経験した国出身のICF平和学校の修了生を合わせた30名ほどが参加しました。プログラム中、カンダマルでの暴力に関する自身の経験を共有する参加者も見られました。また州内の暴力は、地域性よりむしろ政治・経済と強く関連する複雑な現象であると説明している参加者もいました。



インド・オリッサ州のブバネーシュワルY M C Aで開催された「壁を乗り越え、橋を架ける」ワークショップには、約30人が参加。学びの多くは、参加者自身の経験に基づいたもので、平和を醸成する方法や、他の宗教を信じる人々を巻き込むオリッサ州内の暴力について小グループで話し合いました。

宗教対立の問題等に対処するため、宗教間プログラムの内容は、参加者がカンダマルの2つの宗教グループによる暴力を変革し、異なる者同士でも相手への敬意を重要視した対話や関係づくりができるよう、さまざまなプログラムに重きを置いています。

香港中華 Y M C A

カール・ラウ新総主事就任

1970 年より奉仕されてきたローレンス・イック博士の退任により、2012 年 1 月 1 日にカール・ラウ氏が香港中華 Y M C A の新総主事に就任しました。



ラウ氏は、1983 年より香港中華 Y M C A で奉仕してきました。1999 年に、会の運営と社会福祉事業を担当する副総主事に就任しました。

ラウ氏は、イギリス・ラフバラ (Loughborough) 大学で社会政策の学士号を取得、また 2 つの修士号 (香港中文大学より MBA と香港大学より社会福祉) を取得しました。

業界の仲間、学者、キリスト教組織や企業との強いつながりを持ち、さまざまなコミュニティー集団からリソースを提供いただくことを可能にしています。彼のリーダーシップや革新的な考え方は、Y M C A の新たなサービス開発に貢献し続けるでしょう。

彼には妻と 2 人の子どもがいます。彼は、「組織運営において成功を収めることは、自分自身を効果的に運営・管理することから始まる」という信念をもっています。よって、彼は、仕事、家族、教会という 3 つの間で、とてもよいバランスのとれた生活をしています。また、世界規模の Y M C A が一体となって、ユースを地球市民や社会のリーダーに育成すること、よりよい世界をつくり、必要とされている人々に奉仕することを、ラウ氏は強く望んでいます。

APAY 主催ワークショップ情報

災害への備えに関するワークショップ(ミャンマー)

近年、アジア・太平洋地域で頻発している災害への対策として、APAY は、ミャンマー Y M C A 主管で自然災害対策に関するワークショップを 4 月 30 日～5 月 2 日の日程で開催します。

現在プログラムの情報をまとめています。災害に関連

する経験に関するアンケート調査も予定しており、このワークショップのカリキュラムの議題のベースとして用いられる予定です。

ICF の平和学校、インド・バンガロールでスタート

ICF 主催の平和学校 (School of Peace: SOP) が 2 月 1 日より、インド・バンガロールの Visthar で始まりました。今年は、14 か国から 20 人の参加者が 14 週間のプログラムに参加しています。2012 年は、バングラデシュ、ビルマ(ミャンマー)、カンボジア、インドネシア、ラオス、ネパール、フィリピン、タイ、ベトナムから参加しています。また、東ティモールから初めての参加者がおり、他にはアジア・太平洋地域以外から初めて、カナダとアメリカのネイティブ・アメリカンとイギリスのローカル Y M C A のスタッフも参加しています。

総主事デスクより

この 2 月には PSG (Partners Support Group の略) がインドネシアとカンボジアで行われました。PSG では、いくつかのパートナーと一緒にその国の Y M C A 強化のために話し合い、協力をしてきました。PSG は APAY の運動間協力の大切な機動力となっています。日本も、これらの国々のパートナーとなってこれまでかなりの応援をしてきました。ここに 2 つの国の状況を説明します。



インドネシア Y M C A

(PSG メンバー: 日本、オーストラリア、シンガポール、アメリカ、フィリピン)



15 年位前まで、インドネシア Y M C A はアジアでも強い Y M C A の一つでした。しかし、リーダーが替わり、事業不振もあり、財産を失い、今では活動が停滞している状況です。2009 年 9 月に久しぶりにインドネシア同盟大会が開かれ、新しい同盟役員と同盟総主事が選任されました。APAY では、2010 年からこの

国のYMCA運動再興のため、PSG を立ち上げました。以後、PSG は5回行われています。

最初の会議で、インドネシアにあるYMCAのうち、緊急の手当てが必要なYMCAとしてスラバヤとマランを優先させることにしました。スラバヤには、大きな学校があり、経営困難でつぶれかかっていたからです。2010年10月から、同盟総主事マルガリータさんにスラバヤへ移ってもらい、学校再建のために尽力してもらいました。その結果、2011年2月、3つの決断をしました。一つは、幼稚園から高校まである学校のうち、経営が極端に悪く、回復の可能性がない小学校から高校までを早いうちに閉鎖する。二つ目、幼稚園は可能性があるのを、拡大するよう応援する。そして三つ目には、YMCA本来のユースの活動など、会員活動を増やしていくという決断でした。

そして2011年11月から急に状況が変わりました。スラバヤ地元の人たち(学校の卒業生や元会員、生徒の親)が集まり、YMCAを自分達の手で立て直そうという動きが出てきたのです。委員会をつくり、計画を打ち出し、今年2月のPSG会議では一緒に話し合いました。その結果、これまでの同盟主導から、ローカル主導体制に移行させることが決まりました。スラバヤの人たちが独自にYMCA運動を作り上げようとする意欲を感じることができたのはうれしいことです。今後もこの流れを見守っていく必要があります。

カンボジアYMCA

(PSGメンバー: 日本、オーストラリア、シンガポール、香港、オランダ、Y Care)



カンボジアのYMCAは1999年に設立されましたが、その後、動きは鈍く、なかなか安定した動きになりませんでした。2009年にパートナーとなるYMCAが集まり、最初のPSG会議を開催しました。その後、経済

的にも人的にもかなりの支援が行われてきました。これまで7回に及ぶPSG会議が開催され、最後のPSGが2月11-13日に行われたところです。プノンペンにあるYMCAは4階建の細長い建物に事務所を置き、2011年10月に降、スラム地域2箇所子どものための学校を行っています。

最近の動きは、課題であったリーダーシップがかなり強化されたことです。理事会には新しい若い理事が5人補強され(全員で7人)、新しい総主事ブントックさんを昨年10月に採用しました。YMCAをあまり経験していないリーダーシップですから、YMCA理解をしっかりと進める必要があります。その上で、ガバナンス、メンバーシップ、プログ

ラム開発などを進めて行こうと計画をしているところです。

以上2つのYMCAは、新たに中期計画を作り、その一環で2012年の計画を作りました。これまでほぼ全部が外部からの支援で成り立っており、いつまでも他のYMCAに頼りきっているわけには行きません。今後3年間で半分以上自立できるYMCAを目指しています。YMCAとして資源がないこれらの国々でどのようにするか、PSGの人たちと共に共通の目標を作り、前進しようとしています。

今後もみんなで見守り続けていきたいものです。日本のYMCAは同盟やローカルと一緒にこれらの国々を応援してくれています。ありがとうございます。

山田公平

YMCAワールド・チャレンジ (YMCA World Challenge) 2012

YMCAワールド・チャレンジの目的は、500万人を動員しYMCAのストーリーを語ることです。あなたのYMCAワールド・チャレンジの計画を始めて、活動を世界中に広めてください。2012年、ともに歴史をつくりましょう!



発行元
アジア・太平洋YMCA同盟
Asia and Pacific Alliance of YMCAs
23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong
tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692
e-mail: office@asiapacificymca.org